新 秋剣連

発行
秋田県剣道連盟
〒010-0914
秋田市保戸野千代田町 14-12
SAKAEビル 2F-B
TEL 018-883-0680
FAX 018-883-0663
E-mail a-kendo@abelia.ocn.ne.jp
http://akitakenren.com/

第62回東日本医科学生総合体育大会剣道競技
女子団体、個人優勝（三連覇）

秋田大学医学部五年　木村　早希

この度、秋田県剣道連盟広報誌に秋田大学医学部剣道部の活動に関する記事を書かせていただくという機会をいただき、大変ありがたく思います。特殊な環境であるため、なかなか想像しづらい点もあるかと思いますが、この機会に私たち医学生がどのような姿勢で剣道に打ち込んでいるか知っていただけると幸いです。

簡単に自己紹介させていただきますと、私は大館剣修会で剣道を始め、中学校は大館東中、天王中（中学二年時に転校）、高校は秋田南高校を卒業し、一年間の浪人生活を経て秋田大学医学部に入学しました。

医学部剣道部の練習は基本週三回、夜の七時から九時まで、医学部キャンパスとは離れた手形の体育館で行っています。練習開始が遅いため高学年になり実習等で遅くなっても参加できます。部員は医学科・看護・OT・PTも含め約四十名です。指導者はおらず、自分たちで練習メニューを組み、大学から始めたり、中学もしくは高校時代にブランクがあって再開したりする学生もいるため、お互いに教え合いながら練習をしています。

また、地域に住む先生方がいらして指導してくださることもあります。医学部剣道部の最大の特徴は自由度が高いということです。練習に来るのも、その時間をバイトや勉強に充てるも個人の選択次第です。よって部活に来る人たちは自分の時間を割いて練習に参加しているため、その分の熱意と目的意識を持っており、質の高い練習環境になっていると思います。

このような環境のおかげで、秋田大学医学部剣道部は医学系の大会はもちろん、その他の一般の大会でも結果を残しています。県内の様々な大会に参加させていただいていますし、全日本学生選手権大会に予選を勝ち抜いて出場した先輩もいらっしゃいます。

医学系の大会でもっとも規模が大きいのが、毎年八月に催される東日本医科学生総合体育大会、所謂「東医体」という大会です。北は北海道から西は長野まで、約六百人の医学生が集います。西日本では「西医体」もあります。その東医体で私は今年、女子団体優勝、個人三連覇を達成することができました。個人連覇ももちろんうれしかったのですが、何よりも団体優勝が心に残っています。男子は一昨年まで団体四連覇しており、女子はいつもあと一歩のところで優勝を逃していたため、やっと成し遂げることができたという想いです。来年は私自身、大学の最終学年になりますが、出来る限り稽古を積み、精進していきたいと思っております。

最後に、先にも書いたように私たちの部活には指導者がいないため、いつでも稽古への参加者を歓迎しております。練習場所がなかなか確保できない社会人の方や先生方、ぜひ稽古をつけていただき、ご指導賜ればありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

第四十三回東北中学校剣道大会女子個人優勝

秋田大学教育文化学部附属中学校　佐藤　悠月

「正しい剣道を貫き通す」この想いがあったからこそ、今の私があります。

中学校では、剣道歴の異なる仲間達の心を一つにまとめることや、一つの勝利をあげることの難しさを経験し、その分、分かち合う喜びも大きかったように感じる。

中学校最後の年を迎え、他校のライバル達が県内外の錬成会で強豪校と競い合い、活躍していることを耳にし、自分だけが取り残されたような、焦りと不安と孤独感で、心が押し潰されそうになっていた。そして、今まで積み重ねてきた自分の剣道を信じられなくなっていた。

そんな時、自分自身を取り戻すことができたのは、幼少時から通っていた道場の恩師である内山先生と、中学校での恩師である加賀谷先生の教えだった。私は、内山先生の教えを引き継いだ道場の先生方から「基本に忠実に、真っすぐな剣道を、日々、積み重ねていくことの大切さ」を教えていただいた。

加賀谷先生は、焦げ付くような真夏の日差しの日も、凍てつくような厳しい寒さの日も、毎日毎日、私達と一緒に汗を流し、剣を交えてくださった。加賀谷先生からは、ひたむきに稽古を積み重ねることを通じて、「自分の剣道がどうあるべきかを考え、自ら正しい道を切り拓いていくこと」を教えていただいた。

二人の恩師から教えていただいたことは、私にとっての初心であり、私の考える「正しい剣道」の礎となるものであった。

私は、大きい体があるわけでも、力強い技を持っているわけでもない。そんな私が目指す「正しい剣道」とは、「自分の心と体と剣先で、相手の真ん中を攻め続けること」だと思っている。そのことに気づいてからは、どんな時でも自分の剣道を貫き通すことを心掛け、出身道場をはじめ、武道館での稽古会などで、たくさんの先生、先輩方に稽古をつけていただくことができた。

そうして迎えた東北大会当日、私はいつも以上に緊張していた。附属中学校の代表として、一人で臨んでいることの責任が重圧となってのしかかっていたのだと思う。しかし、秋田県の激戦区の中においても、「正しい剣道」を貫き通すことで結果を出せたことが自信に繋がっていたし、「東北大会でも、やり遂げることができれば、必ず結果はついてくる」そう考えると心が軽くなり、冷静に対応できたように思える。

一回戦、二回戦と勝ち進む中で、「怖れず、崩れず、ひたすら前に出続けること」を一層強く意識し、迎えた決勝戦。相手は、県大会の決勝でも対戦した、出身道場の後輩だった。互いに手の内を知り尽くしており、延長戦の末、無心の一本で勝つことができた。

中学校での剣道をやり遂げることができたのは、先生方や剣道部の仲間、そして他校のライバルの叱咤激励に支えられたからであり、感謝の気持ちで一杯である。全国大会では、秋田県の代表として満足な成績を残すことができなかったため、高校では、恩師の教えを胸に、仲間とともに全国の舞台で活躍できるよう、強く正しい剣道を目指し、稽古に励んでいきたい。

恩師を語る 奥山榮三郎先生

湯沢市
前田　貞一

私は昭和三十五年から湯沢中剣道部員として、奥山榮三郎先生のご指導をいただきました。奥山先生は平成二年七月にお亡くなりになり、早いもので今年は没後三十年を迎えます。昭和四十五年に湯沢市少年剣道後援会創立十周年記念として発刊された「湯沢と剣道」という冊子（編集・奥山榮三郎）を読みながら、奥山先生の歩みとお考えの一部について書いてみたいと思います。

（一）湯沢中学校の剣道部誕生について

昭和三十年頃、湯沢中学校に剣道部が誕生しました。奥山先生は剣道復活とともに、防具を整備すること、竹刀をさがし求めることから出発しました。稽古に部員が二人、三人しかおらない時も、毎日続けるより道が開けないと、常に率先垂範、一人でも来たら、さあと面をつけて稽古を始めました。やがて、県の連盟主催で全県大会が実施されるようになると、生徒の目が輝き、稽古に部員がそろうようになり、先生が生徒に礼を言うと変に思いますが、そんな気持になったそうです。

（二）秋田国体湯沢市開催の成功について

昭和三十六年に第十六回国体が湯沢市で開催されました。各県の選手団はすべて民宿でした。奥山先生は開催地剣道連盟の事務局長として大変にご難儀されました。まごころ国体として市民あげて歓迎し、選手団との交流により、剣道の良さと選手や役員の皆さんとふれあい、剣道への関心が多くの市民に広がることとなりました。

（三）子どもたちに「誇り」と「自信」を

奥山先生は、中学校の全県総体に参加しますと湯沢雄勝の実力というものを、肌で感じられました。各郡市の代表チームは優勝旗を先頭に堂々と入場します。しかし、湯沢雄勝には格別優勝旗もなく、何かと淋しい感じを受けられました。湯沢の子どもたちに、全県優勝という感激的な体験と、その両手にしっかりと大優勝旗の重さをにぎりしめさせてやりたい。そのことが、湯沢の子どもたちの「誇り」と「自信」を高揚させ、活気に満ち満ちた子どもにすることだと考えられました。その「誇り」と「自信」が剣道のみならず、日頃の生活や学習活動の意欲づくりに連動していくと思い、全県優勝という目的に全力を傾注されました。

（四）「まなざし」のあるチームを求めて

奥山先生の指導と教育の原点は、広島大学名誉教授吉本均先生と奥山先生との「出会い」にありました。吉本先生の「まなざしで向い合う」という教育法論に、奥山先生が共感され実践されたものでした。「まなざし」とは、子どもたちと最初に交わる微笑みの表情をいい、奥山先生はいつも私たちに、微笑みの表情を向けていました。そして、子どもたちが明るく活発になり、気迫に満ち満ちて、目標を実現しようという「やる気」をもって精一杯努力する、そういうチームづくりをなされました。教育は子どもを「主人公」にすることです。そのために教師と親の「愛と要求」が何より大切という教育方法論でした。

（五）組織づくりの大切さについて

昭和三十六年に、湯沢市少年剣道後援会という組織が結成されました。湯沢市の小、中高校各校剣道部の親の会、後援会を一本化し会員相互の親睦と助け合いにより、湯沢市少年剣道発展のための後援を目的とするものでした。奥山先生がその事務局長として、企画運営にあたりました。奥山先生が、ガリ版印刷で発行される「湯剣だより」は、会員も生徒も皆、楽しみにして読みました。生徒と親の「やる気」を高揚させてくれるのでした。この組織は、各校の指導者どうしの連携、協力関係も、自然と構築してくれました。

（六）子どもに対する情熱と誠実さについて

昭和三十七年、第一回全県中学校選抜大会で湯沢中が初優勝を飾り、全県総体でも見事に優勝旗を手にすることができました。市内をパレードしたことも思い出しますが、奥山先生は選手一人ひとりに優勝記念として、「文武両道」と鳳雲先生に書いていただいた色紙をプレゼントしてくれ、今も持っています。

昭和三十八年、三十九年、四十年と連続優勝をめざして、毎日毎日稽古をし一ミリ一ミリの成長をつみ重ねました。体育館は暗くなり、竹刀は見えないこともしばしばでした。連続優勝、準優勝、敗退、個人戦優勝、準優勝等の成績と人間模様はまるでドラマ

奥山榮三郎先生、奥山京助先生

でした。

昭和四十一年、湯沢中学校は南北両校に分れることになりました。苦楽を共にした生徒が、二つにさかれる思いにかられながら、奥山先生は北中に転任することとなり、再び剣道部での稽古に励むことになりました。当時体育館は各部がひしめきあっていた中、旧東小学校の体育館や、湯沢高校のクラブ練習が終了後、武道場を使用させていただいて稽古する、いわばジプシー剣道部でした。でも剣道に対する情熱、一瞬一瞬の楽しさは、ハードトレーニングを耐えぬくものでした。その頃の奥山先生の帰宅時間は、夜の九時半が早いほうでした。

昭和四十一、四十二、四十三年と全県選抜三連勝・総体三連勝目前で、無念の涙にむせんだものの次の仙台大会、日本武道館の大会、北奥羽大会と「ナニクソ精神」で戦い抜きました。

昭和四十四年、全県総体、選抜、北奥羽大会と、もう一歩というところで惜敗・そして、今年度、最後の大会である、第十一回全国少年剣道錬成大会(水戸大会)中学校の部で、湯沢北中北辰チームが延々十一時間に及ぶ戦いの末、見事優勝全国一となりました。この栄光は選手の努力と永年湯沢の剣道を愛する人たちが積み重ねた努力、奥山先生の子どもに対する情熱と誠実さによる偉業でした。

(七)湯沢の剣道立切試合について

昭和五十五年、湯沢の第一回三時間立切り試合が始まりました。奥山先生が企画し実行委員長になり実施されました。水戸東武館小澤武館長のご紹介で、茨城県勝田若葉会剣士の一行が来湯し、錬成交流会を行ったのが縁でした。私は昭和五十三年に、勝田若葉会の立切りを体験しましたが、その難儀さを肌で感じて帰りましたので、まさか湯沢で開催することとは思いも及びませんでした。しかし、奥山先生の発想は、新しい価値観を描くとともに、自分自身がこれまで生徒を鍛え、人並み以上の修練を積んできた自信と、剣道への愛情と勇魂を持って企画されたと思います。秋田県剣道連盟の後援を受けると共に、福島県からの参加、協力を得て開催したのです。これまで奥山先生の剣道と活動を深く理解し苦楽をともに激励してこられた、奥山京助先生のお力でもありました。昭和五十四年五月奥山京助先生が剣道界の最高栄誉である剣道「範士」の称号が全日本剣道連盟より授与されました。

その栄誉を永久に後輩に伝え、少年剣士の明日への夢を託して優勝旗(奥山京助範士旗)を調整し、昭和五十五年一月、第一回三時間立切試合を開催しました。

第八回大会の際は奥山先生の湯沢北中での教え子、大阪代表岩堀透選手が全日本選手権大会で優勝し、剣道日本一に輝いた基立選手の立切りとなり、大きな反響を呼ぶ、盛大な大会となりました。数々のドラマを生み、今年は第四十一回大会を迎えることとなりました。「百錬自得」をスローガンに、剣道理念、剣道修業の心構えを大会の大前提に据えられた、奥山先生の願いがこの後も変わらず継承されるよう望んでいます。

(八)真に剣道を愛した人

昭和四十九年、奥山先生は雄勝町秋の宮小学校長に転任されて後、院内小、皆瀬中、雄勝中の校長を務め、昭和五十九年湯沢北中校長を務められて定年退職されました。その間、奥山先生は雄勝町剣道を楽しむ会を結成され、稽古をされました。大人になってから剣道を始めた人が大半でしたが、皆、和気あいあいの雰囲気で活気ある剣道仲間が集いました。湯沢にも同様の北辰土曜会という剣道を楽しむ会ができておりましたので、毎年交流を行ったり、秋田市から興陽館の皆さんを迎えての試合、一泊しての懇親会も行われました。

剣道の持つ新しい価値として、剣道を楽しむ人を広め、地域と人に活力を与えました。

昭和五十八年七月、湯沢雄勝剣道連盟の創立三十周年事業は、札幌遠征武者修行の旅として計画されました。奥山京助先生も同行されるとともに、連盟会員並びに後援会員の一行五十名参加し、札幌剣連の歓迎を受けました。

昭和六十三年七月、釧路市への剣道修業の旅も忘れられません。釧路市武道館での菅原恵三郎範士(羽後町出身)と奥山京助範士の模範試合は見事な剣道に魅了されました。翌日知床の宿で菅原先生の喜寿の祝いの懇親会となり、菅原先生夫妻は心から喜ばれました。奥山先生のこのような計画は、奥山先生が、いつも人生に夢とロマンを持ち、実現して下さっているからでした。

平成二年七月、奥山先生が十和田湖の湖畔で倒れ、十和田市の病院に運ばれました。脳梗塞でした。全県中学校総体が湯沢北中体育館で開催中に「榮三郎が死んだ！」と京助先生が私に告げました。私には実感が湧きませんでしたが、京助先生の胸中を察しました。札幌の菅原恵三郎先生から「榮三郎さん―真に剣道を愛した人！それはあなたです！」という弔文をいただきました。

平成十二年八月、ご逝去されて十年になります。奥山先生のご家族の皆様

を囲んで、元湯沢市少年剣道後援会が発起人となり、奥山先生を偲ぶ会を開きました。湯沢市雄勝郡剣道連盟会長でありました戸嶋常郎先生から「先生の本県剣道界に残されました功績は、言葉で言い尽くせるものでありません。特に、湯沢市少年剣道後援会発足に際し、その組織運営並びに活動内容等を計画されましたご功績はまことに大なるものがございます。又、剣道を通して本市の社会教育の向上、青少年の健全育成のため、ご尽力いただき厚く御礼申し上げる次第です。」と追悼の辞が述べられた後、奥山先生を偲び合いました。

大谷博信先生（雄勝中央病院元院長・尚和館道場館長）が「奥山先生は不思議な人だなあー」と以前に言われたことがあります。没後三十年の今尚、奥山先生のことを思います。

（九）おわりに

奥山先生が書かれた「教育と剣道」のむすびに、このような内容が書かれていました。

『子どもの体力や健全な精神の育成と、勝つことが最大の目標となり、すべてがそこに集中するようになりました。健康と体力のあり方、フェアプレーの精神、強い意志と創造力、友情や連帯、技術の習得の在り方等、たくさんの課題があるなかで、すべてに「楽しさ」がなくてはならないと思います。「好きで楽しい」と本人が心からおもえる剣道でなくてはいけないと思うのです。剣道だけではなく、スポーツや趣味を持つことが、その人の人生にどれ程の活力を与えているか、よく認識し行動していることだろうと思います。』

剣道界でも、勝利至上主義のもつ問題点を考えつつ、「教育と剣道」「人生と剣道」という、広く長い視点から剣道を再考することで、新しい価値の発見を剣道に見出してみたいと思うのです。明日へのロマンをもって！

剣道体験教室の実施状況（報告）

少子化対策委員会　**柏木　幹夫**

少子化対策委員会では、三年前から各郡市剣道連盟に剣道体験教室の開催を要請してきました。この三年間で、五郡市剣道連盟で体験教室が継続開催されてきております。

実施状況は別表のとおりですが、地域によって、それぞれの実情に応じた実施体制・方策がとられています。例えば、由利本荘にかほ剣道連盟では年度ごとに開催地域を変え、三年間で三地域において開催されてきました。また、鹿角剣道連盟では、「鹿角市こども未来事業団」とタイアップして地域活性化事業の一環として実施してきております。

実際の体験教室そのものは、いずれの連盟においても二時間前後で終了できるものとなっていますが、準備にはかなりの時間と労力を要します。まずは、できるだけ多くの子供たちや保護者に参加してもらえるように、学校・幼稚園・保育園等に開催を周知するため、大量のチラシ配布が必要になります。これには教育関係行政等の協力を得る必要もあります。また、地元新聞に事前に掲載依頼をすることにより、開催予告を記事にしてもらったり、後日、その様子が地域の話題として記事に掲載される事例も出てきております。

事前準備で重要なことのもう一つは、体験教室で使う小道具の準備があります。実施するプログラムに応じた小物を用意しなければなりません。ボール・風船・紙風船・新聞紙・食器洗い用スポンジ・ライトセーバー（玩具）・参加記念の賞状・スタンプラリー台紙・おみやげ・記念写真関係、などなど実施プログラム（様々なアイディア）に

よる小物の準備が必要になります。湯沢市で開催された体験教室では、新聞紙を折って作った手作りの四角い紙風船が使われていたのが印象的でした。(女性ならではの発想です。)

このように、事前の開催周知と小物の準備には時間と労力を要しますが、一度実施することによりノウハウが身に付き、継続することによりスキルアップが図られていきます。

また、体験教室を推進してきた中で、副次的な効果が認められることがわかってきました。それは、

①実施している郡市剣道連盟の活性化が図られること。

体験教室の参加対象者が小学校低学年以下の幼少年とその保護者が中心になることから、郡市剣道連盟で体験教室を担当する指導者(担当者)は若手や女性がベターであり、これら皆さんの活躍が郡市剣道連盟の活性化をもたらす効果があるということ。

②体験教室では、必ずしも小中学生経験者によるデモンストレーションは必要ないということが判明したこと。

当初は、小中学生の経験者による防具をつけてのデモンストレーションは、剣道を知ってもらうために最重要と考えていたのですが、特に幼児の参加者が多い場合などには「恐い(こわい)!」という印象を抱かせてしまい、剣道に興味を持たせるという意味では逆効果を招くケースがあるということがわかってきた。

ということがありました。

秋田県剣道連盟では、体験教室実施に当たり費用面での補助、子供用竹刀の提供など支援を行っております。各郡市連盟同士の情報交換により、実施のためのノウハウは十分に蓄積されてきております。

体験教室の開催および継続開催は、剣道の普及・発展にとって重要な取組みであるとの認識に立って、まだ開催していない郡市剣道連盟においては是非年間スケジュールに組込んでいただくようお願いいたします。(担当者を決め、協力体制をつくることによって開催は可能となります。)また、実施済みの各連盟においては、引き続き継続開催していただくようお願いいたします。

剣道体験教室実施状況

令和2年1月現在

No	郡市剣道連盟	活　動　概　要
1	鹿角剣道連盟	◉平成29年度より実施(3年目終了) ◉鹿角市こども未来事業団とタイアップして開催(予算事業団負担) ◉鹿角市武道館 ◉ゲーム感覚、打込、表彰。年間事業に組込み、継続実施する。
2	能代山本剣道連盟	◉平成30年度より実施(2年目終了) ◉能代B＆G体育館 ◉スポ少、小学生のデモンストレーションも実施 ◉地元新聞に実施の模様記事掲載あり。(事前に掲載依頼)
3	由利本荘 にかほ剣道連盟	◉平成29年度より実施(3年目終了) ◉1年目 矢島地区、2年目 本荘地区、3年目 象潟地区にて開催 ◉小学生によるデモンストレーションも実施 ◉郡市剣道連盟体験教室として先駆的役割を果たしてきた。
4	大曲仙北剣道連盟	◉平成29年度より実施(3年目終了) ◉少子化対策として独自に予算計上 ◉女性指導者が主担当 ◉開催地区を移しながら実施
5	湯沢雄勝剣道連盟	◉平成30年度より実施(2年目終了) ◉広域交流センター ◉女性指導者・会員が中心となり企画・運営 ◉事前に応募者を把握、参加者名札作成
6	秋田県剣道連盟	◉県立武道館主催の武道祭において体験教室実施 ◉平成22年より実施(11年目終了) ◉各武道団体と同時開催 ◉秋田市内の小学生経験者に応援補助依頼

(備品)開催郡市連盟にて子供用竹刀20本保管。(総数100本)

その後、剣道授業はどうなったか
～武道必修化対策委員会の報告～

武道必修化対策委員会
小林　俊夫

三年計画の三年目となる中学校版剣道体験教室が十二月六日、にかほ市立仁賀保中学校（二年生対象）と由利本荘市立由利中学校（一年生対象）で行われました。柔道を選択する両校が委員会の呼びかけに賛同する形で、今年度も実施しました。また、平成二十八年度から毎年実施している授業協力者を活用した剣道授業公開研究会も四年目を迎えました。鳥海中学校の実践はスポーツ庁のホームページに掲載されていることから、ここでは授業構築の配慮点と体験教室について報告します。

今年度の授業構築に当たって、気になる調査結果がありました。平成三十年度にスポーツ庁が実施した「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」です。問二十九「武道の授業でどのようなことができたと思いますか。当てはまるものを全て選んでください」という質問に、以下の8選択肢が用意されています。

1　基本となる技を身に付けること。
2　技ができる楽しさを味わうこと。
3　武道に積極的に取り組むこと。
4　武道の伝統的な考え方を理解すること。
5　相手を尊重すること。
6　礼儀や作法など伝統的な行動の仕方を守ること。
7　自分や友達の安全に留意すること。
8　入学してからまだ行っていない。

結果表から分かるように、選択番号3が全国、秋田県ともに二割台と残念な結果です。教師主導の授業が影響するのか、生徒主体の学習活動が狭められているのか、生徒側に起因するのか。この結果からだけでは詳細な分析には至りませんが、生徒が積極的に学習活動に関われる部分が少ないことが影響しているのではないかと考えます。いずれ全国傾向にあることは看過できない課題です。また、選択番号4、5、7も二割台と残念な結果になっています。質問内容を理解できているか疑問ですが、武道指導のねらいが達成されているとは言いにくいです。武道は、長い歴史の中で、相手との格闘や勝負を経て、形を変えて発展してきた日本固有の文化です。相手が存在することで自分の技や技能が上達すること。更に高レベルの考え方として、相手は敵ではなく、共に高め合う存在として捉えること等、自分を律し相手を敬うという精神を生徒に説明しても十時間程度の学習ではなかなか理解が難しいと思われます。この傾向をふまえ、今年度は礼法をこれまで

以上に重視するとともに、日本武道協議会製作の指導ＤＶＤ第１巻の中から映像「武道の歴史」を活用することとしました。口頭の説明より分かりやすくコンパクトに収められた有効な教材です。また、運動量の確保は空間打突で補うようにしました。加えて、楽しい剣道学習になるように、競技としての楽しさと学び方の楽しさを散りばめました。具体的には、①剣道が持っている楽しさ　②活動する楽しさ　③できる楽しさ　④新しいことを学習する楽しさ　⑤仲間とかかわる楽しさ　⑥認められる楽しさ　⑦役割を果たす楽しさ　⑧わかる楽しさ　⑨工夫する楽しさ　⑩自己決定する楽しさ等です。更に、アクティブ・ラーニングの視点に立った学習活動を支える手立てとして、挿絵を多用した「学習の手びき」と打突の仕方がわかる映像を作成しました。なぜなら、主体的な学びや相互作用で自らの考えを広げ深めること、学習内容の習得・活用・探求には生徒の思考と相互評価を活性化することが不可欠だからです。掛け図やＢＧＭ、自己評価表、できばえ判定シートと相まって大きな効果が期待できます。当日の授業は、中一の九時間計画の九時間目でし

た。よりよい技の完成に向けてペアと協力して練習した後に、観点に沿って技のできばえを相互評価し、アドバイスを与えるという流れでした。話し合い活動では、気・剣・体の一致に着目した高いレベルの相互評価やアドバイスを多くの班で見取ることができました。

剣道体験教室は、十二月六日の午前に仁賀保中二年生六十九名。午後は由利中の一年生三十三名が体験しました。いずれも指導時間は正味五十分。秋剣連広報誌十五号で紹介済みの簡易竹刀を活用し、面打ち、小手打ち、胴打ちを音楽に合わせてやさしく打つことをゴールとしました。竹刀の握り方や打ち方の説明は掛け図を併用し時間短縮を図りました。仁賀保中では登録授業協力者三名、由利中では二名が指導に当たりました。まとめは、練習したお相手と座礼を交わし体験教室を終了しました。生徒の感想には、「握り方から足の動きなど細かいところまで教えてくれたので楽しんでやることができました。楽しい音楽に合わせてリズムよく打てて、すごく楽しかったです。教え方もみんなにやさしく教えてくれて楽しかったです。すり足が少し難しかったです。胴打ちが難しいです。またやりたいです。リズムに合わせて打つことはできなかったが二人で協力して打てたので楽しかったです」と『楽しい』というキーワードが多く見られました。三年間の実践で、体験教室の内容精選、簡易竹刀の実用性、ＢＧＭの効果を実感できました。また、授業協力者の実践場面を設定できた授業協力者の指導力向上にも一助になりました。次年度以降の計画は未定ですが、保健体育の授業時間に合わせた形で継続したいと考えています。

三年間の剣道体験教室アンケート集計　高 ← → 低
H29：１６７名　H30：１１０名　R1：１０２名

		4	3	2	1
Ｑ１　楽しく活動できた。	Ｈ２９	89.2%	8.4%	1.8%	0.6%
	Ｈ３０	83.6%	15.5%	0.9%	0.0%
	Ｒ１	87.3%	11.8%	1.0%	0.0%
Ｑ２　もう少し剣道を体験したい。	Ｈ２９	50.9%	41.9%	6.0%	1.2%
	Ｈ３０	51.8%	37.3%	7.3%	3.6%
	Ｒ１	71.6%	16.7%	9.8%	2.0%
Ｑ３　音楽に合わせてやさしく打つことができた。	Ｈ２９	56.5%	39.0%	4.0%	0.6%
	Ｈ３０	60.9%	34.5%	3.6%	0.9%
	Ｒ１	65.7%	32.4%	2.0%	0.0%
Ｑ４　安全に活動できた。	Ｈ２９	92.8%	6.6%	0.0%	0.6%
	Ｈ３０	85.5%	13.6%	0.9%	0.0%
	Ｒ１	90.2%	9.8%	0.0%	0.0%
Ｑ５　仲間と協力しながら活動できた。	Ｈ２９	94.6%	4.8%	0.0%	0.6%
	Ｈ３０	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
	Ｒ１	91.2%	8.8%	0.0%	0.0%

H30　スポーツ庁　全国体力・運動能力、運動習慣等調査
問２９　武道の授業でどのようなことができたと思いますか。

区分	1	2	3	4	5	6	7	8
公立	64.7%▼63.6%	33.1%▼32.5%	20.0%▼19.0%	22.3%▼22.4%	26.7%▼21.5%	41.8%▼48.1%	23.4%▼25.3%	9.5%▼11.5%
国立	67.1%▼67.2%	30.2%▼29.7%	20.7%▼18.6%	26.9%▼27.0%	28.1%▼23.4%	41.1%▼46.0%	23.9%▼26.5%	24.0%▼24.2%
私立	51.2%▼48.2%	19.7%▼19.5%	12.5%▼11.2%	16.1%▼15.5%	17.7%▼13.1%	31.4%▼33.1%	16.4%▼16.0%	22.3%▼29.5%
全国	64.0%▼62.7%	32.5%▼31.8%	19.7%▼18.6%	22.0%▼22.1%	26.3%▼22.1%	41.3%▼21.1%	23.0%▼24.9%	10.3%▼16.2%
秋田	72.9%▼70.9%	41.8%▼38.0%	22.3%▼19.9%	21.8%▼21.3%	30.0%▼25.1%	47.1%▼50.1%	26.1%▼29.0%	4.6%▼ 3.9%

シリーズ道場紹介　第十二回

■秋田県高齢剣友会■

●代表者　会長　鈴木　由克

●本会の発足について

平成元年一月、秋田県内の高齢剣道愛好家が、剣を通して親睦交流を図り、好剣不老の情熱をもって自らの体力と健康を維持し、剣道の発展に寄与することを目的に発足し、現在は五十五名の会員で稽古を重ね、各種大会の参加や行事を行っております。

●主な事業や各種大会について

1　毎年五月中旬に行われる「鳴子神社奉納関東・東北高齢者剣道大会」があり、今年は第二十七回目になります。参加者は、毎年百名を超え、五歳刻みの年齢別で個人戦が行われます。

大会の前日に、全日本高齢剣友会岩立会長をはじめとする指導の下、稽古会が開催される他、一堂に会しての懇親会があり、各県の先生達との楽しい交流の場もあります。

2　毎年六月の第一月曜日に行われる「全日本高齢者武道大会」は、全国から五十五歳以上の高齢者剣士が八百名以上参加し、日本武道館で開催され五歳刻みの個人戦が行われ頂点を目指しております。今年は四十二回大会となりますが、オリンピックの関係で武道館が使用できないため八王子の体育館が開催場所となりますが、来年からは武道館開催となります。

3　毎年九月の中旬には、「いきいき長寿秋田ねんりんピック剣道親睦大会全県大会」が武道館剣道場で開催され、全県各地から参加した十五名の選手たちが、七十歳を基準とし二グループに分れ頂点を目指した他、今年は、「演武の部」を設け勝敗に関係なく立会いを披露するなど、和気あいあいとした楽しい大会となりました。

本大会は、秋田県社会福祉協議会が主催するものですが、秋田県高齢剣友会がメイン事業とするものです。

4　十月下旬に開催される「山形紅花杯争奪高齢者剣道錬成大会」があります。

北は、北海道から南は福井県に至る男子六十歳以上、女子五十五歳以上の選手が百九十二名参加し、五歳刻みの四人一グループの変則リーグ戦を行い頂点を目ざす大会です。昨年は八十歳以上のグループで菊地弘志先生が見事優勝し、秋田県高齢剣友会の名声を高めていただきました。

またこの大会も、鳴子の大会と同様に前日に稽古会と懇親会がありとても楽しい大会となりました。

5　最後になりましたが、最も大きな大会となります「全国健康福祉大会」通称ねんりんピックです。

昨年は、十一月九日から十二日まで第三十二回大会が和歌山県で開催されました。

剣道交流大会は、白浜市が会場となり各県一チーム（東京都二チーム・地元三チーム）と政令指定都市を合わせた七十チームが四ブロックに分れ予選リーグを行い、翌日残った十六チームで頂点を目指す大会です。

毎年レベルアップされ、予選を突破するのが大変な大会となりました。昨年は、先鋒が米谷誠選手・次鋒那須正人選手・中堅田原徹選手・副将鈴木由克・大将杉山忠幸選手で試合に臨みましたが、第一試合で常勝軍団山口県と対戦し、三対一で敗れましたが、第二試合では、来年の開催地である岐阜県と対戦し、三対一で勝利しました。

岐阜県チームは今年の強化選手を中心としたもので、秋田県の勝利は、今年の岐阜県チームの勝利に大きく貢献する試練となったはずです。

これらの行事のほか、昨年は県南地区・県北地区稽古会を開催し、地区の先生がたくさん参加され有意義な稽古会を開催できたことや、山形県ねんりんピックチームとの稽古会や懇親会など盛りだくさんの楽しい行事ができました。

また、秋田県剣道連盟が新たに設立していただいた、段別選手権の高齢者の部と郡市対抗剣道大会における高齢者の部に積極的に参加し、高齢者の元気溢れる姿を見ていただきたいと思っています。

●稽古場所
　秋田刑務所「修武館道場」
●稽古時間
　四月～九月　四時半から五時半
　十月～三月　四時から五時
　本会の顧問である菊地弘志先生が道場主を務める「日曜会」の稽古会と合同で実施しています。多い時ですと三十名弱の先生が集まり、汗を流しています。
●事務局
　〒〇一〇－〇九四六
　秋田市川尻総社町一一－一一
　電話〇一八－八六四－八〇一三
　齋藤信行
●年会費
　二千円（八十歳以上は無料）
●昨年のすばらしい出来事
　本会の副会長である横手氏の今功夫先生が長年スポーツを続けて功績を残した高齢の競技者を讃える『第十四回日本スポーツグランプリ』を受賞されました。
　本会の理事である滝田毅先生が六段審査に合格されました。（本会では、杉山・渡邉先生の七段合格に続くものです。）
　両先生に心からお祝い申し上げます。
　終わりにもう少し高齢化社会が続くことになりますが、元気で長生きをするため稽古を重ね、試合を楽しみ、程よい緊張感を保ちながら終わりに美味いビールを飲むため「秋田県高齢剣友会」に加入していただき共に楽しみ・頑張りましょう。

■　修　武　館　■

●代表者　尾形　茂
●所在地
　秋田市川尻新川町一－一
　秋田刑務所　修武館道場
●「本道場の歴史」について
　昭和から平成を跨ぎ、秋田刑務所本所の改築が開始したことに伴い、同所刑務官の正課（剣道・柔道・矯正護身術）鍛錬場として、平成三年「修武館」が建立された。

　時を同じくし、「修武館」は秋田市稽古会の会場として、秋田市剣道連盟からの指名を受け、毎週金曜日は、秋田市民の「交剣知愛」の場として定例稽古会が行われるようになった。
　これを契機に、年齢を問わず、小学生から社会人までの剣士（三世代）が、週一回のペースで一堂に会することになり、剣士の子供や学区を超えた子供まで、たくさんの子供達が集まるようになり、小学生低学年の子供達が増え始めていった。
　そのような中で、刑務官が、子息と共に、かけっこや体操、縄跳びなどの体力作りをはじめ、ボール遊びや鬼ごっこなどで遊び始めながら、徐々に剣道を取り入れることで、いわば「剣道教室」のような形が構築されていった。
　修武館が、秋田市稽古会場として活動を始めてから二年余りの月日が流れると、成長し大きくなった子供達はそれぞれ、小学校のスポ少や道場等で剣道を始めるために修武館を去り、四～五人の子供達が修武館に残り剣道を続けていた。
　「修武館に残った子供達に、剣道の面白さや良さをもっと体験させてあげたい。そして、少しでも地域や社会に貢献したい。」という、刑務官達の思いから、平成十三年春、修武館が、道場としてその第一歩を歩み始めた。
　現在は、尾形茂を中心に、秋田刑務所剣道部の協力の下で、稽古や指導を行っている。
●「稽古日と時間」について
　1　「修武館」の稽古日
　毎週月曜日から木曜日午後六時三十分頃を目安に稽古を開始して、概ね一時間三十分程度で終了。（秋田刑務所剣道部の稽古が終了次第稽古を開始）
　2　秋田市剣道連盟定例稽古会
　基本的には、毎週金曜日午後五時三十分から同八時までの概ね二時間三十分
●「稽古内容と指導の要点」について
　子供達が、剣道家としてはもとより、「人としての正しい心の在り方や、使い方」を学び、「人の気持ちや心の痛み」を知り、「思いやり」のある人間に成長できるよう、人間形成を第一に考え指導を行っている。
●「道場の特色」について
　子供達の指導者にもなる刑務官の練習風景を、稽古前に、素振りをしながら子供達が「見取り稽古」することで、稽古に対する心構えや、稽古中の気迫を感じ取らせ、子供達の剣道に対する心の育成を図り、刑務官の基本技や応用技を見取ることで、剣道に対する発想力や想像力を養成する一助とし、子供達の目線で、自分で自分を鍛える環境を構築しながら、子供達が、剣道をより一層身近に感じられることで、気剣体の一致を、日々の稽古の流れの中で自然に習得することができるという特色がある。
●指導者数　四名
●道場生数　幼少年十五名
●会費　無料

令和元年度各賞受賞者

◎令和元年度　全日本剣道連盟

「剣道有功賞」

大野　剛（秋田市剣道連盟顧問）

「少年剣道教育奨励賞」

美郷剣道スポーツ少年団

◎令和元年度　秋田県剣道連盟

「幼少年指導奨励賞」

大館北秋剣道連盟　北秋館
小笠原　聡　先生

秋田県剣道道場連盟　角間川道場
落合　等　先生

大館北秋剣道連盟　大館剣修会
藤原　淳逸　先生

左から、小笠原先生（欠席につき代理三國佳紀）、
落合先生・藤原先生

平成三十年度各賞受賞者

◎平成三十年度

秋田県剣道連盟表彰

（功労賞・本田賞・小笠原賞・その他表彰）

「功労賞」

鍋島　喜隆（秋田市剣道連盟）

「本田賞」

・第十六回全日本選抜剣道
八段優勝大会ベスト８
湯澤　寛（五城目高教頭）

・第六十五回全国高等学校剣道大会
男子個人ベスト８
及川　拓（秋田南高校）

・第十三回全日本都道府県対抗
剣道優勝大会（中学の部）
団体三位
監督　東海林　斉（土崎中教）
選手　山田　夏（勝平中）
佐藤　悠月（秋大附中）
打川　武（湯沢北中）
福田　樹也（土崎中）
高橋京太郎（飯島中）

・第二十八回全国高等学校
剣道選抜大会

・第四十八回魁星旗争奪
全国高校勝抜剣道大会
男子団体ベスト８（秋田商業高校）
監督　高橋　伸友
選手　三浦　悠人　小野　洋介
福田　直樹　髙田　夏希
菅原　陽音　畠山　康汰
牧野　匠真

「小笠原賞」

・第四十八回全国中学校剣道大会
団体ベスト８（勝平中学校）
監督　齊藤　明子
選手　山田　夏　菅原　陽菜
秋山　理菜　及川日菜子
小野　萌子

・全国高等学校定時制通信制
体育大会
第四十九回剣道大会
女子個人　第三位
鈴木　蓮華（本荘高校定時制）

・第三十六回若鷲旗剣道大会
女子団体準優勝（土崎中学校）
監督　東海林　斉
選手　高橋　秋羽　宇佐見千紘
長尾　香子　宇佐見名月
児玉　杏菜　齋藤　芽生
高階　花海

「特別賞」

高橋京太郎（飯島中３年）
秋田県中学校剣道大会
男子個人三連覇
東北中学校剣道大会
男子個人二連覇
全日本都道府県対抗
少年剣道優勝大会
中学の部　団体３位（大将）
加藤　由佳（秋田北高教）
全日本剣道選手権大会
十回出場（全剣連表彰）

令和元年度七段・六段・称号合格者

剣道七段

佐々木恭洋（大曲仙北）・８月17日
茂木　靖生（大曲仙北）・11月27日
小松　明久（秋田市）・11月27日
三浦　潔（秋田市）・11月27日

剣道六段

山崎　洵（能代山本）・８月18日
山中　大輔（湯沢雄勝）・８月18日
西根　義明（大曲仙北）・８月18日
滝田　毅（秋田市）・11月17日
工藤　健正（秋田市）・11月26日
長谷川智香（秋田市）・11月26日
金　杏奈（大館北秋）・11月26日
藤原　淳逸（大館北秋）・11月26日
和泉慎太郎（横手市）・11月26日
玉内　博美（鹿　角）・11月26日

剣道教士

植田　雅人（秋田市）・５月６日
杉山　喜幸（秋田市）・11月27日
土田　真澄（由本に）・11月27日
後藤　竜美（大曲仙北）・11月27日
原田　孝夫（由本に）・11月27日

剣道錬士

小田嶋　契（横手市）・５月６日
田口　真也（能代山本）・11月27日
金澤　英明（由本に）・11月27日
中野　秀人（能代山本）・11月27日
岡本　泰輔（由本に）・11月27日
徳山　淳（由本に）・11月27日
鈴木　紀子（秋田市）・11月27日
三浦　潔（秋田市）・11月27日

居合道教士

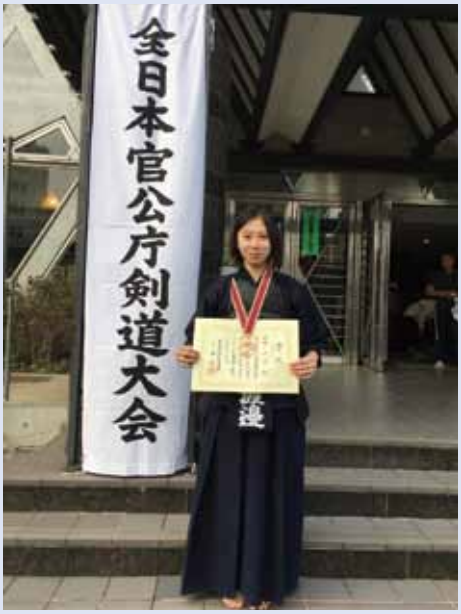
桂　邦夫（大館北秋）・５月３日

第五十一回全日本官公庁剣道大会　女子個人三位

渡邊　柚

このたび、全日本官公庁剣道大会に出場し、個人三位という成績を残すことができ、大変嬉しく思います。同時に、出場に際していろいろな形でご指導、ご支援いただいた多くの皆様に心より御礼申し上げます。

私は、昨年四月に秋田県庁へ入庁し、現在は潟上市にある地域振興局に勤務しております。新社会人として初めての仕事に取組み、一日も早く仕事を覚え、粛々とこなしていかなければならない中、気力的にも体力的にも疲労困憊し、一日一日をこなしていくことで精一杯という毎日が続いておりました。入庁後まもなくお誘いを受けて県庁剣道部に入部させていただきましたが、なかなか稽古の時間も作れずにいたところ、先輩から今大会への出場のお誘いを受け、勢いに流されるように出場することになりました。



この大会の出場選手は、警視庁などの警察官、刑務官、自衛隊員、消防士等、普段から仕事の一環で剣道に関わることが多い方々ばかりで、練習量の差と大会にかける意気込みが強く感じられました。そのような中で、心身ともに準備万端とは言えなかった私を一緒に出場した先輩方がいろいろな形でサポート、リードしてくださり、そのおかげで力まずに楽しみながら試合に臨むことができました。

今思えば、入部へのお誘い、日頃のご指導、そして今大会へのお誘いもすべて、私の周りにいらっしゃる先生方、先輩方に作っていただいたきっかけであり、こうしたきっかけは、決して自分ひとりでは作り得ないものだったと思います。社会人になってからも剣道を続けてきたことで、これまでになかった出会いや繋がりが広がり、そこから様々な経験をさせていただくきっかけが生まれてきております。こうしたご縁に深く感謝するとともに、これからもなお一層、大切にしていきたいと思っています。

また、私の周りには、出産や育児などで一旦剣道から離れなければならない時期がありながら、その後も剣道を続けておられる女性の先輩方がたくさんいらっしゃいます。そのような先輩方のように、私も女性の剣道選手として、少しでも秋田県に貢献できるような存在になることが今後の私の抱負です。

これからも稽古に励み、精進して参りたいと思いますので、今後ともご指導をよろしくお願い致します。

広報委員会からお知らせ

剣道人口の拡大を図るために各郡市で行われている大会の結果や、取り組みの状況をホームページに載せていきたいと考えています。

情報がありましたら、記事の内容や写真などをFAX、できれば電子データで送ってください。

広報委員会ホームページ担当
鹿子澤　浩美
（連絡先）
E-mail shukenren@gmail.com

編集後記

令和二年七月五日(日)秋田県立武道館で、第六十二回東北・北海道対抗剣道大会が開催されます。この大会は、東北各県から選抜された男子三十名と女子七名が、北海道代表と対勝負の形で試合をしていくもので、本県では第五十回大会以来の開催となります。

全日本選手権大会をはじめとする、各種大会で活躍した、東北北海道を代表する有名選手が多数出場する大会で、例年名勝負が繰り広げられています。

この機会にたくさんの方々が観戦してくださることを願っております。

編集
秋田県剣道連盟広報委員会
芳谷　正人、石田　泰男
辻　文彦、柏木　亮
鹿子澤浩美、筒井　洋美
岩船　志保